

⑥7 塩竈市浦戸諸島における災害公営住宅建設工事

受賞機関 塩竈市
独立行政法人都市再生機構 宮城・福島震災復興支援本部

<評価>

特別名勝の松島湾に位置する浦戸諸島4島において、市が造成・基盤整備を行った敷地に、住宅及び集会所を整備した事業。住民の参画を興りつつ離島部漁村集落オリジナルの住宅整備を実現した点や、島の復興シンボルとしての集会所には、壁材に横板を使う板倉構法を採用し、地場産業である林業・製材業の再興を促している点が評価された。

はじめに

塩竈市と独立行政法人都市再生機構（以下、「UR」という）は「災害公営住宅整備に係る基本協定」を締結し、協働して市内各地の災害公営住宅を整備している（URが災害公営住宅の設計・建設を行い塩竈市に譲渡する「買取方式」を採用）。

事業の概要・成果

松島湾に位置する浦戸諸島4島においては、住宅計画にあたり、本土とは異なる離島部漁村集落でのライフスタイルを住宅・屋外・集会所計画に反映させるため、島民参画で島のライフスタイルを反映した浦戸オリジナルの計画づくりを実施した。

- ①島民の親密な交流を継続するコミュニティ空間づくりのため、囲みの住棟配置や縁側の設置
- ②島民が住み慣れ、かつ湿気の多い島での通風確保に適した「田の字型プラン」の採用
- ③島民の厚い信仰心を反映した、仏壇と神棚置場の設置
- ④大半の入居者が漁業に従事するとともに家庭菜園を営むため、漁具、農具の共同洗場・物干場や大きめの物置



板倉構法により建設した集会所

を設置

- ⑤高齢者への介護サービス拠点とするため、集会所への浴室の設置など

また、特別名勝松島における景観形成を図るとともに、東北の地場産業である林業・製材業の再興に寄与することも視野に入れ、別棟の集会所（寒風沢地区・朴島地区）は「板倉構法」を採用し、外壁を焼きスギとし、島の復興のシンボルとしてふさわしい集会所を整備した。

おわりに

災害公営住宅建設後においても、桂島海水浴場再生に島民とともに取組み、島の復興を見据えたコミュニティ支援を実施している。引き続きハードだけでなく、ソフト面においても早期復興に向けた取組みを継続していく。

⑥8 災害公営住宅整備事業

受賞機関 福島県 いわき市

<評価>

いわき市内7地区16箇所に、約1,500戸の災害公営住宅を整備した事業。災害後、早期の災害公営住宅供給が期待されるなか、プレキャスト工法の採用等の工夫や地元建設業協会との協定締結などにより、約1,500戸の災害公営住宅整備を計画の平成27年度までに完了した点が評価された。

はじめに

本市では、東日本大震災により多くの方が住宅を失い、生活していた地区に帰ることができず、不慣れな土地で、応急仮設住宅等での生活を余儀なくされていた。このため、一刻も早く被災者の方々に安定した生活を確保していただくことを目的として、災害公営住宅の整備を進め、平成28年3月までに、市内7地区16箇所に1,513戸（うち250戸は、買取り後補修）が整備された。

事業の概要・成果

整備地区や整備戸数については、入居意向調査結果を踏まえ決定したが、津波被災地区は、地域コミュニティの回復等を考慮し被災地に近接した場所に、また内陸部の地区は、利便性を考慮し、病院や学校に近い場所に、それぞれ団地を整備した。また、住宅形態は集合住宅を基本としたが、被災者の希望を考慮し、全体整備戸数の1割程度である146戸を戸建住宅とし、併せて本市初となるペット同伴での入居を可とした専用集合住宅を140戸整備した。さらに、入居者のコミュニティの形成の拠点として、集会所を設置した。

事業に際しては、東日本大震災による甚大な被害に加え、



災害公営住宅薄磯団地

原子力災害に伴う風評被害、さらには復旧・復興工事の実施に伴う人材や資材等の不足等により事業の進捗が危惧された。しかし、市民のみなさまの厚い協力を得て、早期完成、早期入居を目指した。特に建築工事については懸念された作業員や建設資材等の不足に対応するため、大部分の団地で住戸のタイプごとに寸法を統一したプレキャストコンクリート工法を採用した。また、平成22年5月に地元建設業協同組合と締結した災害時支援協定に基づき、作業員や資材の状況等を随時協議し、円滑な事業を図ることができたことから、予定どおり事業が完了した。

おわりに

本事業を予定どおり完了できたのは市民のみなさま、民間建設業界、行政などが一体となって事業に取り組むとともに、全国のみなさまからのご支援があったことから成し遂げられたものであります。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。